

調査の目的2

～タイ・カンボジア・ベトナム～
 東南アジアは、現在、新興国として世界の需要をけん引しており、また、チャイナリスクなどから、製造拠点のシフトも進んできています。東南アジアと一口に言っても、気候や風土、資源の状況、宗教や政治、日常習慣や商習慣など、様々であり、現地の事情がわからないと、人件費の安さだけでは、工場進出や販路の拡大のための判断はできません。
 今回、**バンコク・プノンペン・ホーチミン**と、**ASEANの東西主要幹線**に沿って、JETRO事務所を中心に訪問し、開業の実績のある神戸周辺の企業も併せて訪問し、現地事情について調査を行いました。

4 タイ・バンコク アジア・ヤマシタ・ワークス(株)さん



山下社長と工場の玄関にて

工場見学1

工場見学2
 エアロラップと呼ばれる特殊な研磨機のデモを見学。¥500硬貨(左側)が美しく変身!

少し恥ずかしそうでしたが、手慣れた手つきで研磨の実演

バンコクから車で1時間ほど移動した郊外の工業団地の中にあるヤマシタワークスさんを訪問しました。ヤマシタワークスさんは、尼崎に本社がある、金型及び部品の製造・加工や自社開発による自動鏡面加工装置(AERO LAP)を製造販売する会社で、7年前にタイに現地法人を設立されました。
 現地法人の社長は、尼崎本社の社長の息子さん、いわゆる2代目になりますが、社長がタイに進出を決めてからタイに渡り、タイ語を習得されたということです。現地は、日本人従業員が2名のほかはタイ人28名だそうです、日本人1名が産休を取られたため、2代目社長は急ぎよ日本から戻ってきて切り盛りされていました。
 タイでの最低賃金は、日給300バーツ。(1バーツ¥3くらい)社会保険等もありますが、使える病院は限定されるそうです。1年に30日の病気休暇があり、有給休暇は6日。外国投資を進めるためのタイのBOI*という投資恩典制度には、大変苦労されたということ。BOIの投資恩典制度は、法人税や設備に用いる機械の輸入税などが還付される仕組みです。ところが、税務署でもなかなか税が還付されず、何度も食事の接待をしたとか。。他にもいろいろな苦労話をお聞かせいただきました。
 *BOI (Board of Investment)タイ投資委員会

5 カンボジア・フンペン タイガー・ウィングさん



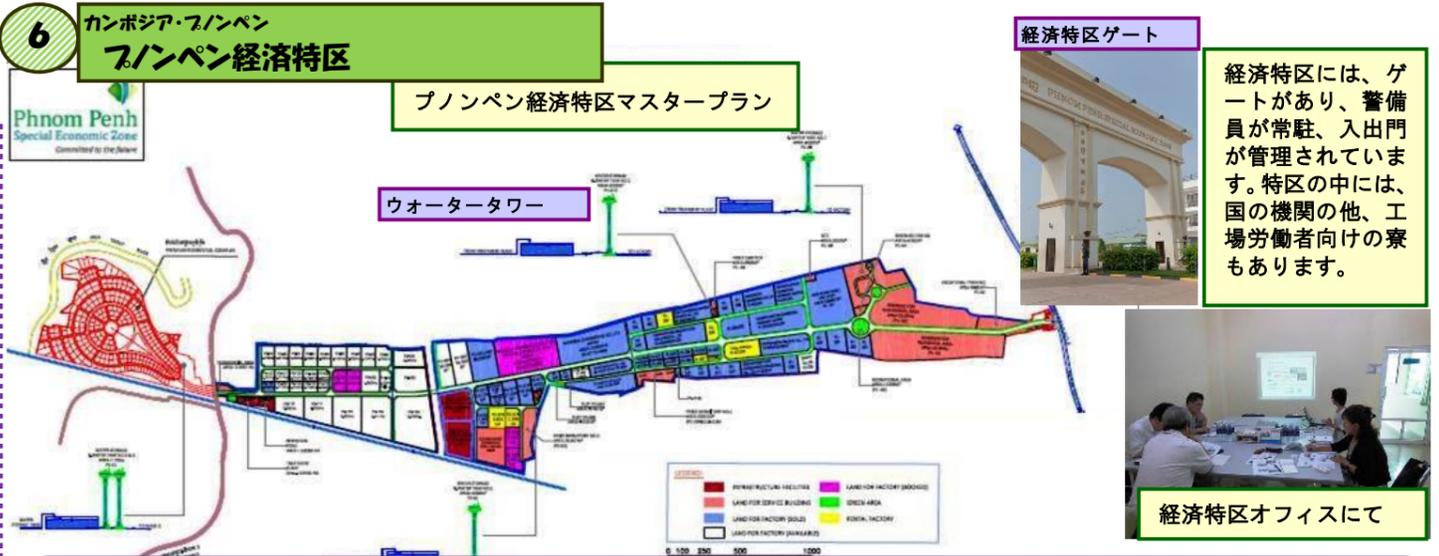
春日工場長と工場玄関にて

工場見学

工場の昼食休憩の風景です。会社側からの提案で、屋根とテーブル・イスなどを設置。

経済特区の中に第1号として進出した長田区大橋にある靴メーカー、ラガーコーポレーションの子会社タイガーウィングさんの工場を訪問しました。婦人用のカジュアルの皮靴を製造していて、年間生産は25万足。日本の百貨店向けが主流で、製品はすべて日本の本社に販売されます。靴のデザインは、取引先が指定し、パターン化を行っています。日本人は社長含め6名、中国人スタッフ12名は、サンプルづくりや中国とのやりとり、倉庫管理などを担当。ベトナム人も1名。工場の作業員は708名で、一般ワーカー(黄色の作業服)班長(緑色)副組長(赤)組長(青)の4段階に分かれています。これまでは神戸港を使用していたが、取引先が東京のため東京を使うようになったとのこと。生産性は中国の70%くらいか。
 製造業の最低賃金は61\$。ポルポト時代に知識層が虐殺されてしまっ、教える人の数が足りないことが今も影響しているそうです。平均学歴は小5くらい。東南アジアでも、ストライキが話題になっていますが、元日本の組合役員出身の工場長が、従業員の福利厚生には配慮をしておられ、特に問題ないようでした。工場で働く皆さん、明るくご挨拶してくださいました。

6 カンボジア・フンペン フンペン経済特区



Phnom Penh Special Economic Zone
 経済特区マスタープラン

ウオータータワー

経済特区には、ゲートがあり、警備員が常駐、入出門が管理されています。特区の中には、国の機関の他、工場労働者向けの寮もあります。

経済特区オフィスにて

「経済特区」と聞くと、国が自治体が公的に設置しているイメージですが、プノンペン経済特区は、広さが**141haもある民間資本の大規模な工業団地**です。フンセン首相がトップのカンボジア開発協議会が、2005年に経済特区の設立と運営に関する政令を發布し、スタートしました。その下に、**ワンストップサービスセンター**(投資申請・通関・労働の手続きや管理運営をワンストップで行う)と、**トラブル解決委員会**(特区内でのトラブル解決)が組織されています。
 カンボジアでは、QIP*の対象になると、**①輸入資材・生産機械の輸入税が免除②輸出産業は、原材料の輸入と輸出税の免除③法人所得税が免除**となる特典があります。また、外国資本が入りやすく、土地所有を除いて外国資本に対する差別がありません。特区では、主に、航路は**シアヌークヴィル港**を利用。2015年には、**プノンペン・ホーチミン間に橋ができる**予定で、陸路が使えるようになります。プノンペン経済特区は、22%が日本資本、78%はマダム・リーさんというカンボジアで洋酒輸入業から発展した個人資本。
 インフラは国際基準に則って整備されています。現在、進出希望の引き合いが多く、インフラ整備を急いでいるとか。
 電気は、通常は政府の電気を使用しており、最近安定してきている。停電に備え、発電所を整備しているほか、浄水・下水の設備、ドライポート、通信設備のインフラが整備されています。日系企業はワーカーに対してきちんとしているので人気が高いそうです。福利厚生もきちんとしている。ベトナムは、人手不足と停電がしょっちゅうあるのが難点で、カンボジアは電気代は高いけれども安定している点、また人件費が安い点がメリットということです。
 *QIP(Qualified Investment Project)

7 ベトナム・ホーチミン しょうご国際ビジネスサポートデスク



代表の浅井氏は、ホーチミンで日系ソフトウェア企業を経営(社員数150名)。在学中にベトナムの研究をやっていた関係で、ホーチミンに進出していた白青舎を手伝うことに。コトブキの経営するコトブキ・マリOTTという5つ星のホテルの手伝いも。97年のアジア通貨危機で白星社も撤退。98年、コトブキホールディングス、解散に。当時の駐在員は、みんな片道切符で、戻るところもなくベトナムに残った人多い。兵庫県人会結成し、現在、会員80名。当時、お菓子を担当していた丹後さんが会長。タンゴ・キャンディという会社を作る。事務局長の本田さんもコトブキの方、現在、食品加工の会社を経営。神戸にゆかりの人が多く。県からの依頼を受け、しょうご国際ビジネスサポートデスクのホーチミン支部として、現地進出の企業の相談窓口を行っています。



カンボジアのガイドさんと記念撮影。その後、facebookのお友達になりました。上の写真は、ガイドさんの庭のマンゴーです。

あわただしく、5泊7日、駆け足で各国を回ってきました。東南アジアの国々は、似ているようで、行ってみるとそれぞれ地域ごとに事情が異なり、これがビジネスとなると、本当に現地の情報をつかんでおかないと大変だなあという印象を受けました。グローバル経済となった現在、成長するASEANの国・地域と連携していくことは、いろいろな面で重要で、そのためには、自治体レベル、民間レベルでの草の根の友好関係を保っておくことも、大切ではないかと思います。

〒655-0034 神戸市垂水区仲田 3-1-8-202 (垂水支部) 神戸市会議員 川原田弘子事務所
 TEL&FAX 078-709-8998
 e-mail: happy@hiroko-club.com
 URL: <http://www.hiroko-club.com>

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 民主党神戸市会議員団
 TEL 078-322-5844
 FAX 078-322-6161

ご相談はこちら